

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立桶川高等学校)

目指す学校像	地域の期待に応える学校
--------	-------------

重点目標	1	カリキュラム・マネジメントの充実と、高い志を持ち、地域の将来を担う人づくり。
	2	生徒中心の学校行事・部活動の推進と、自信や自己肯定感を育む生徒支援。
	3	学校・家庭・地域の連携の具体的な深化と、情報収集・発信力の高い学校づくり。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者	4名
生徒	3名
事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			実 施 日 令 和 5 年 2 月 1 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 昨年度、評価アンケート(魅力ある授業)の肯定的な評価割合10%の増加を達成するなど、授業改善が着実になされている。</p> <p>【課題】 コロナ禍で実施できなかったアクティブラーニング、ICTを活用した魅力ある授業の実践</p>	生徒の主体的な学びの支援及び進路指導体制の更なる充実	<p>①アクティブラーニングやICTを活用した魅力ある授業の実践、Google Classroom等を活用した学習保障</p> <p>②大学入試制度に係る情報共有・活用</p> <p>③希望進路の実現に向けた生徒支援の更なる充実</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の実践</p> <p>①教員相互の授業見学と研究授業の実施</p> <p>①評価アンケート(魅力ある授業)の肯定的な評価割合の増加(前年度比+5%)</p> <p>②③模試等分析結果の活用(授業改善、学力向上)</p> <p>②③面接・小論文指導、スタディーサポート、探究活動、面談等の充実</p>	<p>アクティブラーニングやICTを活用した授業実践は着実に進展。進路指導では外部機関と連携し最新の進路情報の提供等できる限りの対応を行った。</p> <p>①Google Classroomのシステムは、教員のノウハウの向上により、教材・課題の授受や出席停止等に対応等に活かされた。</p> <p>①外部講師を招いた授業研究研修を年次研修対象者に実施(9月)。</p> <p>①授業互見(見学)週間を6月、9月、11月に実施した。</p> <p>①授業アンケートを1学期末に実施し、2学期からの授業改善に活かした。</p> <p>①魅力的な授業を行っていると感じた生徒は55.8%(前年比-0.9)となった。</p> <p>②③Benesseによるスタディーサポート振り返り研修会(教員向け、生徒向け)を複数回実施した。</p> <p>②③外部機関と連携した進路校種別「ネットイノベーション(1年)、分野別上級学校説明会(2年)を実施した(10月)。</p> <p>③通年補習(9講座)、夏季学力増進講座(17講座)、面接指導・小論文指導(3年)を実施した。</p> <p>③外部講師による公務員講座を継続的に実施した。</p>	A	<p>【課題】 ・生徒アンケートの「魅力的な授業」に関しては本校の実践と生徒の意識に乖離が見られる。生徒のニーズを反映させた授業改善は今後の伸びしろが大きい課題である。</p> <p>【改善策】 ・主体的・対話的な学びの実践 →アクティブラーニングの展開 →興味・関心を抱かせる教材の選定</p> <p>・ICTを活用した授業実践</p> <p>・朝学習の有効活用</p> <p>・授業互見活動の活性化</p> <p>・授業アンケートの工夫改善</p>	<p>【意見・要望】 ・「主体的・対話的で深い学び」はコロナにより難しい部分があったと思う。ICTを家庭学習手段として活用を進めてほしい。 ・学校教育は授業が本丸。授業改善に向けすべての教員が相互観察に取り組んでもらいたい。 ・各教科の授業アンケートの結果を改善策の展開につなげる具体的な仕組みを研究してほしい。 ・親の立場では、自分の子供をワンランク上げられる指導ができる学校に魅力を感じる。 【評価】 ・教職員のICT活用能力の向上は、生徒への情報伝達面で大変有効になっていると思います。 ・外部機関と連携した教育活動は中学校より進展しています。</p>
2	<p>【現状】 基本的な生活習慣は確立されているが、コロナ禍等によるメンタル不調等を訴える生徒が散見される。</p> <p>【課題】 生徒の少しの変化も見逃さない教育相談体制の確立及び活気ある学校行事、部活動の再開</p>	メンタル不調等の生徒の教育相談体制の確立及びコロナ禍で制限された学校行事、部活動等の再開(活性化)	<p>①教育相談体制の確立(研修会の実施、外部専門家(SC、SSW等)を活用した生徒支援)</p> <p>②部活動、学校行事の更なる活性化</p>	<p>①評価アンケート(安心・安全に生活できる場所)の肯定的な評価割合の増加(前年度比+5%)</p> <p>①生徒の状況把握、情報共有、課題解決に向けた取組の実践</p> <p>②評価アンケート(楽しく学校に通っている)の肯定的な評価割合の増加(前年度比+5%)</p> <p>②評価アンケート(部活動に熱心に取り組んだ)の肯定的な評価割合の増加(前年度比+5%)</p>	<p>カウンセラーによる教育相談はオンラインも併用し実施。またカウンセラーの独自配置に向け校内の共通理解を進めた。課外活動では複数の部活動が全国大会、関東大会に出場した。</p> <p>①安心・安全に生活できる場所と思う数値は生徒80.4%(-1.5)、保護者90.0%(+0.8)であり高い水準を維持している。</p> <p>①教育相談は特別支援教育コーディネーターと養護教諭が主体となり実施(カウンセリング32件)。フィードバックは担任及び学年主任と連携して情報を共有した。</p> <p>①職員会議において生徒指導・支援事例等を発表・共有し、教育相談体制に厚みを持たせた。</p> <p>②桶高に入学してよかったと答えた生徒が78.8%(+0.7)、楽しく学校に通っていると答えた生徒が84.1%(+0.7)と増加傾向を示した。</p> <p>②部活動は感染者の発生ごとに適切な活動停止期間を定めつつ可能な限り活動を継続した。</p> <p>②全国大会等には書道部、陸上競技部、弓道部が出品・出場。関東大会にも陸上競技部、囲碁将棋部が出場した。</p>	A	<p>【課題】 ・学校生活に満足している生徒が多い反面、教育相談へのニーズは年々増加している。悩みを持つ生徒への丁寧な対応が求められる。 ・部活動に熱心に取り組んでいると答えた生徒は73.5%(-5.6)で減少傾向が見られる。</p> <p>【改善策】 ・教育相談体制の充実 →学校独自のスクールカウンセラーの導入 →外部講師を招いた教育相談研修会の実施</p> <p>・部活動、学校行事の更なる活性化 →メリハリのある部活動の推進 →生徒に達成感を意識させる生徒会行事</p>	<p>【意見・要望】 ・教育相談はスクールカウンセラーの専門的な知識を生かしつつ、あくまでも教職員が主体となって生徒・保護者の課題解決を進めてほしい。 ・登下校でヘルメットを着用している生徒を目撃した。命に関わることで大切である。 ・部活動は何かをやり遂げたと考える大事な活動なので頑張ってもらいたい。 【評価】 ・文化祭は感染症対策を意識しながら実施する大変さがありましたが、感染を広げることがなかったのでもっとしています。 ・コロナで活動が制限される中、学校行事等をなるべく中止せずに実施できたことは生徒にとって大切であるし、学校として素晴らしい。</p>
3	<p>【現状】 コロナ禍により、地元行事や交流事業が殆ど中止となった。また、文化祭も2年連続中止となった。</p> <p>【課題】 2年間、殆ど実施できなかった地元との交流事業、文化祭等の学校行事の実施に向けた準備(ノウハウの継承)</p>	地元小・中学校と連携事業の再開及び地元からの入学生の増加	<p>①部活動、ボランティア等の地域行事、地元小・中学校等への積極的な参加</p> <p>②学校説明会参加者の増加</p> <p>③文化祭等、2年連続中止となった行事の実施</p> <p>④学校ホームページの日々更新</p>	<p>①地元行事への積極的な参加、地元小・中学校との交流</p> <p>②学校説明会参加者の増加(前年度比+10%)</p> <p>③文化祭の実施に向けた円滑な準備態勢の確立、ノウハウの継承、来場者数の増加</p> <p>④学校ホームページの更新及び内容の充実</p>	<p>地元小・中学校との交流はコロナ禍前水準に回復。また地域からの要請に応じて複数の部活動等が地域イベントに出品、参加し地域の期待に応えることができた。</p> <p>①加納中学校との生徒会交流、加納小学校での学習支援ボランティア(8月)、陸上指導(9月)、吹奏楽演奏(3月)を実施した。</p> <p>①選挙委員会ボランティア(7月)・桶川市民芸術文化祭(10月)・桶川市民まつり(11月)・20歳を祝う会(1月)等で複数の部活動・有志が活躍した。また本校文化祭作品も放課後児童教室で再活用された。</p> <p>②学校説明会を4回実施(10月、11月、12月、1月)、特に第1回(10月開催)は、授業公開時間を変更し学校説明会の接続を強化した。</p> <p>②学校説明会の申込フォームは各回とも早期に上限に達し、来校者は530組(約1,000人)となった。</p> <p>②夏季休業中の部活動体験会を3年ぶりに再開した。</p> <p>③感染症の拡大防止に配慮しつつ外部からの来校者を認めた文化祭を3年振りに開催。生徒会行事のノウハウが継承された。</p> <p>④本校ホームページをこまめに更新し(Web日誌は1/10現在)</p>	A	<p>【課題】 ・地域行事における本校生徒の活動要請は高い。地域の期待に今後も応えていきたい。 ・9割を超える生徒が近隣地域から進学してくることを踏まえ、近隣地域に向けた広報活動の強化が課題である。</p> <p>【改善策】 ・地域連携行事の周知と早期からの準備</p> <p>・中学生向け広報活動の工夫改善 →近隣中学校との情報連携 →部活動体験に合わせた学校説明(夏季) →学校説明会開催時期の検討</p> <p>・PTA・後援会との綿密な情報共有 →PTA事業・ノウハウの円滑な引継ぎ →南支部長校としての取組</p>	<p>【意見・要望】 ・地域交流では文化祭の一般公開が大きな課題と捉えています。文化祭作品の小学校への寄贈は今後も続けていきたい。 ・中学校訪問、塾訪問等による情報収集を基に生徒募集、学校改善等に生かしてほしい。 ・PTAでは学校と連携しながら役員選出及びPTA活動をよりよく実施していきたい。</p> <p>【評価】 ・小中学校との交流活動は、小中学校の児童生徒にとっても楽しみな行事になっている。 ・中学生の保護者からすると、次年度計画されている学校説明会の早期開催は大変ありがたい。</p>